英国南部旅行（1999）

その 11：リーズ城、メイドストン、テンターデン

7 月 29 日（木）

今日はアッシュフォードのホテルからリーズ城（Leeds Castle）、メイドストン(Maidstone),テンターデン(Tenterden)を見て回った（下の緑の線）。

アッシュフォードのホテルを出てすぐ高速道路M20 の 9 番から乗って次の出口 8 番で降りリーズ城へ向かった。リーズ城は 500 エーカー（2 平方 km）の広さがあり、標識に従って進むと駐車場がいくつかの区画になっていた。場所を確認しておかないと、帰りに迷子になるほど広い駐車場であった。朝早かったので、入り口近くに駐車できた。入り口を入り小川に沿って進むと前方にリーズ城が現れる。古城史研究家ロード・コンウェイが「この世で最も美しい城」言った通りの城である。リーズ城の名は近隣のリーズ村に由来していると言われている。857 年に、木造の城が作られ 1119 年に、石造となり、長い間、中世の

王妃達王族の所有となった。歴代の城主の中でもヘンリー八世は特に有名で城館のほとんどの部分の拡張や装飾のために巨額を費やしている。15 世紀に王家の手を離れ、イングランドの名家に受け継がれ、今日では財団の管理となっている。この間、リーズ城は数々の戦いやロマンスの舞台となったが、常に安息の場を提供した。上の写真はリーズ城中心部の全景で、右の写真は白鳥の泳ぐ堀の外側からのリーズ城である。この右側には 16 世紀以来、木造の納屋として使用されていた Fairfax Hall があり、現在、セルフサービスのレストランになっている。そこで簡単な昼食をとった。さらにその隣には大きな庭園（Culpeper garden）と大きな鳥小屋があり、100 種類以上の珍しい鳥が飼育されていた（左の写真）。少し離れたところに 1988 年に設計製作された迷路とグロットー（人口の洞穴）があり、いろいろな意味が込められているそうですが、後からその存在を知り残念に思った。リーズ城は英国の数百年の歴史の一部を担っており、さらに、現在もこの広大な敷地が維持管理されていることに感銘を覚えた。

次に、メイドストンの中心街へ移動し、どこにでもあるショッピングアーケードの「ロイヤル・スター・アーケード」を散策した。メイドストンの郊外に、ホップ農場があるとパンフレット（右の写真）にあったので、見に行くつもりであっ

たが、道を間違えてしまったのでテンターデンへ立ち寄った。テンターデンは「その 9」で通過した小さな町であるが今回は車から降りて散策することにした。街路樹のあるメイン・ストリートを挟んで商店街が並び、St. Mildred's Church（左の写真）を中心とした小さな町である。スーパーマーケットの裏の駐車場に車を止め、メイン・ストリートを散策した。各商店とも非常にこじんまりした店が多かった。中にはイングランド赤十字の店などがあり、商品はリサイクル品で、売り上げは赤十字に寄付されるのではないかと想像した。Ｔ－シャツを一枚購入した。このまちはローマ時代には鬱蒼とした森林であったという。St. Mildred's Church は 12 世紀に建造されたようだ。13 世紀にはローマの道が開通し、羊毛の貿易で栄えたと言う。14 世紀には木造船建造のための木材の売買で一層栄えたが、１5～16 世紀には海岸線の状況が変化して経済は下り坂となった。その後、現在まで近代化は進んでいない。それだけに、落ち着いた町の景観が維持されている。この後、アッシュフォードのホテルに戻った。